

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770700748		
法人名	株式会社エコ		
事業所名	グループホーム楓の郷1階		
所在地	福島県須賀川市西田町9-3		
自己評価作成日	令和2年6月29日	評価結果市町村受理日	令和2年9月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和2年9月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気づくり、寄り添う姿勢、ご家族様とのより良い環境作りに努めています。災害時の対応と受け入れの相談を福祉避難所として行っています。地域の人々との交流が出来る。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 法人のバスを利用し、好天時に定期的に花見・紅葉狩り・芝桜見学・エコカフェ・田圃アート等の外出支援を行っている。
 2. 事業所が地元自治体の避難所に指定されており、災害時には地域住民の受け入れを実践している。昨年の災害時には住民の受け入れを行った。
 3. 事業所には菜園があり、地域ボランティアの支援を受けながら利用者と職員と一緒に、季節ごとの野菜を栽培しており、利用者の楽しみとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義や役割を考えながら理念を作りあげ、その理念を管理者と職員は、共有し意識づけしていくため日々の中で話し合い、実践につなげている。	法人の「理念」及び「運営方針」を受けた「事業所理念」は地域密着型サービスの意義を踏まえたものとなっている。毎朝理念を唱和し、全職員が意識を共有して、毎日のサービスで実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様と共に地域の行事に参加し地域から孤立することなく近所づきあいや防災への参加に取り組んでいる。	町内会に加入しており、地域の清掃作業等にも参加している。また、地域の文化祭に利用者の作品を出品したり、産業祭など地元の祭りに出かけて住民との交流を図っている。中学生の職場体験も受け入れており、利用者の楽しみになっている。地域ボランティアも数多く受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員が認知症の研修を受け、ご家族様や地域の方々の不安や悩みに応じる事が出来る体制を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議で報告や情報交換、率直な意見をもらい、それをサービス向上に具体的に活かしている。	会議は定期的開催しており、委員も各分野から広く選任されている。内容は、事業所行事・利用者状況・職員体制・ヒヤリハット等を報告している。委員からは様々な意見や提言が出され、これらの意見等は全職員で話し合い、事業所運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村と連携を取り、運営状況などを伝え相談をしアドバイスを頂き運営を行っている。	行政職員が運営推進会議に参加しており、連携が図られている。また、生活保護利用者の情報共有を図り、連携を密にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束の内容とその弊害を認識し身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。「どんなことがあっても拘束は行わない」という姿勢を持っている。	一昨年に「身体拘束適正化委員会」を設置し年4回開催している。また、「身体拘束禁止に向けたマニュアル」を作成し、身体拘束に該当する具体的な行為を示して職員への周知徹底を図っている。日中玄関の施錠は無く、職員の見回り等で対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などに参加し職員全員で高齢者虐待防止関連法の理解をし共有化に努め虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し理解は出来ている。必要とされている利用者、ご家族などに対しては周知を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や契約解除の際には、内容について分かりにくかったり、不安や疑問などがないか十分な説明を行い対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族様が来所時に、意見や要望などを話せる時間を持ち、運営推進会議のメンバーや外部の人にも伝えられるよう機会を作っている。	利用者の意見や要望は、日常生活の会話やしぐさなどから把握している。また、家族からは面会時や電話連絡等の際に、利用者の現状を報告しながら意見や要望を聞いている。把握した情報は全職員で共有し、日常のサービスに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見に耳を傾け、一人ひとりが働きやすい環境づくりを行っている。	職員間のコミュニケーションが良好で、全職員がいつでも何でも言える環境となっている。また、管理者は状況に応じて個別に面談を行い、職員の意見や要望を把握している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各人が向上心を持てる職場環境を整え、代表者は管理者や職員の日頃の努力や具体的な実績、勤務状況を把握し職員処遇への反映や向上心を持って働けるような対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修とともに、職員が働きながら技術や知識を身につけていく事を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、研修等に参加し同業者との交流を踏まえ、サービスの質を向上させていく取り組みに努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事や不安な事があるか、常に目配り・気配り・傾聴などを行い、本人が安心して生活出来る様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の今までの苦労や経緯について聞き、不安や要望等に耳を傾けながら、今後のサービス提供につなげて行くことで、家族との信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が必要としている支援を見極め、意向を尊重したサービスの提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は共に生活しているという気持ちを持って、思いやりのある関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切に、職員と家族が共に本人を支えていけるような関係に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人への手紙や外出、面会等により関係が途切れないよう支援に努めている。	事業所が家族へ隔月広報誌を郵送する際に担当職員が利用者の近況を伝える手紙を同封し、家族との関係が途切れないように努めている。なじみの店での買い物や理美容院の利用は家族の協力を得て支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各利用者が不安なく話をする状況を作り、常に声掛けを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されても困りごと等があれば、協力や相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人の思いや考えなど、主にケース会議で話し合い、把握し共有している。	担当職員は、利用者やゆっくりコミュニケーションがとれる機会を設け、利用者の思いや要望を把握している。利用者の希望や思いを受け止め、日常生活の中でやりたいことや好きなことが続けられるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴など、利用者本人や家族から情報を収集し、安心して生活を送ることが出来るよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察や職員間での情報交換により、利用者の現在の状況、思いや希望を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本人の状況や要望に合った支援が出来るよう、ケース会議等で話し合い、サービス計画を作成している。	利用者や家族の意向を踏まえ、担当職員が実施したモニタリング内容をケース会議で検討して介護計画を作成している。介護計画の見直しは、通常、短期3か月・長期6か月を原則としているが、利用者の状況に変化があった場合には随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、状況の変化や気づきについては、日誌やケース記録、申し送り・ノート等で報告を行い、情報の共有を図り実践に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険サービスだけでなく、その場その時に支援の方法を職員と協力しながら対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	それぞれの利用者にあつた地域資源を把握し、安全で充実した日常を送れるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時利用されていた、かかりつけの医療を希望される旨を伝え、ご本人様と家族との同意を得て受診しています。	かかりつけ医受診を支援しており、家族同行を原則としている。また、事業所では月2回の在宅専門医の往診があり、本人の健康状況を的確に伝え信頼関係を作っている。診療結果の記録は家族と共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の医療連携看護師には状況の変化など伝え相談して適切な医療や看護が受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際しては早期に退院出来るよう、家族や病院関係者と情報の交換や相談出来るよう支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時から家族様などと話し合いを行い、事業所で出来る事を説明し、地域の関係者などと協力して支援していきます。	入居時までに、「重度化した場合における(看取り)指針及び医療連携体制同意書」及び「終末期の看取り等について(事前確認書)」を家族や本人に十分説明し同意を得ている。また、看取り研修を行い訪問看護ステーションとも連携し体制を整えている。状態変化時には、医師からの説明と家族の意向を再確認し看取り支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内で定期的な訓練を行い急変時や事故発生時に備えて実践力を身に付けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いで総合防災訓練を行う、他毎月ホーム内で独自に計画した防災訓練を行っている。	年2回の消防署立ち合いの総合防災訓練を実施し、区長や民生委員、消防団の参加があり協力体制ができている。また、事業所独自で月例で火災や地震等夜間も含めた避難訓練等を実施している。水や米、缶詰、コンロなど備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重しプライバシーを守り損ねない様、気を配り言葉かけに対応しています。	職員の接遇研修を重ね、利用者の人格を尊重した支援に努めている。トイレや入浴時の声掛けも静かに誘導している。個人情報簿冊は、施錠可能なキャビネットに保管し、「楓の郷だより」に掲載する写真等はプライバシーに留意し事前に同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が思いや希望を自己決定出来るよう声かけしながら働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合に合わせるのではなく、一人ひとりのペースに合わせて、本人を見守りながら本人の希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの個性・希望・生活歴等に応じ希望に合わせて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食事は暮らし全体の中で重要な位置にあります。一緒に食事を味わいながら、食事が楽しいものになるよう支援をしています。	職員が、利用者の希望を聞きながら献立を作成している。地元商店から食材を購入し、近隣住民から野菜の差し入れのほか、菜園で収穫した季節の野菜も食卓に上っている。利用者は、食材の下ごしらえなど可能な範囲で参加している。また、好天時に外食も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日全体を通して必要な食事・水分が摂れるよう支援している。利用者の好物、体調・運動量・体重の増減介助の方法を工夫しながら支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけ介助を行っている。一人一人に合わせて出来る人には行って頂き、後に確認し汚れなどある場合は介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや排泄習慣を把握し声かけや誘導を行っている。また自尊心を傷つけることが無いように注意している。	居室にもトイレがあり、プライバシーが守られる環境で、ゆっくり落ち着いて排泄できるようになっている。排泄状況チェック表に記録し、一人ひとりの排泄パターンや表情、経過時間等から優しく声掛けを行いトイレ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便チェックを行い、水分補給や軽い運動を促している。便秘の方は、下剤を使用する際には、主治医の指示で使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様のその日の体調や気分を伺い、状態に合わせて入浴剤をしようしたり、会話を楽しんだり入浴して頂いている。入浴時は好きなように、ゆったり入浴して頂いている。	できるだけ利用者の希望により入浴できるような体制をとっている。入浴拒否者には時刻・話題・担当者等を変えながら静かに誘導している。入浴できない場合には足湯・シャワー浴・清拭等に対応している。入浴剤や季節感のあるしょうぶ湯・ゆず湯等を活用し楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床や消灯の目安の時間はあるが、好きな時間に安心して休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用する薬の内容を確認、把握しながら飲み忘れや誤薬を防ぐため、その都度二人体制にて確認行いながら支援に努める。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人に合った出来る役割を持っていたり、下膳・洗濯たたみなど楽しんで行えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様と外気浴や散歩等、ケアプランや体調に合わせて行っている。ホーム全体でドライブ等で外出行事を設けている。	事業所では外出可能な利用者を対象に、月1回法人のバスを活用し、花見・紅葉狩り等遠方も含めた外出を行いドライブを楽しんでいる。また、本人が希望する場合は、食材の買出し等に行っている。友人の協力で以前から参加していた集まりに出かける方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と一緒に買い物へ出かけ、金銭を使用する機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	月に一度、家族様へ入居者様の様子を手紙でお知らせしている。入居者様の希望により電話など家族様、知人と連絡出来るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や緑を飾り、季節の行事の物を飾っている。入居者様が居心地良く生活出来るようにしている。	共用空間には、テーブル・椅子・ソファと和室エリアがあり、壁面には利用者と一緒に制作した作品や写真入りのお便りが飾られている。エアコンで空調され、外からの音なども気にならず居心地よく過ごしている。また、災害時の頭巾が各部屋の入り口に準備されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者様同士、席を配置し会話が弾むようにしている。意見や思いを聞き、過ごしやすい場所づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切に本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	入居者様の馴染みのある物を持参して頂き、安心して過ごせる環境づくりをしている。プライバシーには配慮している。	居室は介護ベット・小箆箆・エアコン・換気扇・トイレ・洗面所が設置されている。利用者はテレビ・テーブル・椅子等を自由に持ち込み、各自が安心して生活できるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の身体状況に応じ、居室に手摺等、設置している。出来る事は安全に出来るように支援を行っている。		